

学習指導Ⅳ 第5学年 国語 「ちがうことばで表すと」

授業者 本田 祐吾

1 「ことば」の学びと国語 わたしが大切にしていること

私自身は、国語の学習を通して子どもたちが「ことばを通して、他者、世界とどう分かり合っていくか」を学んでほしいと考えている。日常の場面やサークル対話では、目の前にいる他者に私の思いや考えを伝えられることであり、逆に他者の思いや考えをわかることである。これが本や教科書など紙に書かれるものでも同様で、目の前に他者がいるかどうかの違いはあっても、ことばを通して分かることは同じではないだろうか。

これらをシンプルに表現すれば、著者性のあるあなたがそこにいるか、いないかが違いであり、話しことばであっても、書きことばであっても、わたし以外の他者が伝えたいことを受け取ることであり、わたしが伝えたいことを発信することであるといえるのではないだろうか。このように考え、年間を通して授業は、「私がどう受け止めたか、また他者がどう受け止めたのか」が行き交いつつ、そのズレに気づきあい、それを尊重し合ったり、合意形成したりすることが学習の中で起きることを期待して学習を展開してきた。

そして、3年生から教科担任であることを生かし、継続して取り組んできたことがいくつかある。一つは、「ビブリオバトル」である。これは、自分が読んで面白かった本を一冊選び、その本についてを聞き手が読みたくなるように発表して質疑応答し、最後に一番読みたくなった本＝「チャンプ本」を選ぶというものである。これは、子どもたちにも人気が、毎年1回行なっているが、ビブリオバトル後は、そこで紹介された本を読む子がすごく増えるのが面白い。そして、子のビブリオバトルにも生かせるように、夏休みに本の紹介カード作りを行なっている(当日掲示です)。

また、低学年でのサークル対話、共同推敲をボトムアップする学びとして、4年生では「これって何?」という学習を行った。これは、教室など身の回りにあるもの、例えば「ほうき」をその言葉を使わずに説明した文章を作り、学級全体で推敲し、文章を練り上げる。そしてそれを、他のクラスに呼んでもらって、「ほうき」であることを当ててもらい、また文章についてアドバイスをもらう、という学習である。そして、5年生では、その発展として、クラス替えに合わせて「これって誰?」という学習を行った。これは、クラスの誰かを他己紹介するものだが、同じように名前を出さずにそれを表現し、みんなに誰のことかを当ててもらったものであった。

2 本時の学習について

(1) 学習材について

この授業を構想したきっかけは、2017年頃にYouTubeで出会った動画であった。

“The power of Words”というショートフィルムで、ある盲目の男性が教会の前に座り、傍らにはボードが置かれている。そこには、“I’m Blind. Please help”と書かれており、空き缶が足元に。ところが、道ゆく人はほとんど誰も足を止めず、お金を入れることもない。そこに一人の女性が通りかかり、立ち止まっておもむろにボードを手にとって裏側に何かを書き込み、そちらを表にして元に戻して立ち去っていく。すると、通行人が次々と空き缶にお金を入れていくようになる。そこに先ほどの女性が現れたため、盲目の男性は、何をしたのか尋ねる。女性は、「同じことを違うことばで表現しただけだ」と伝える。そこで、映像はボードをアップに映し出すのだが、こう書かれていた。“It’s a beautiful day. And I can’t see it.”

これを見て、“The power of Words”ということにも引っかかり、日常から子どもたちにことばを大事にする、相手への伝え方を考えようと言っていたことを授業を通してかんがえる機会になると考えた。加えて、私は子どもの頃からよく、日常の身の回りにある広告やポスターなどを見て、「これはいい表現だなあ」「これは、こうした方がもっといいのに」という思っていたことを思い出した。そして、お茶小の子どもたちが電車やバスで通学している実態からも、何気なく通り過ぎている日常のポスターや広告を改めて注目し、そこに表されていることばや表現を考えてみるのは面白いのではないかと考えた。

この映像を初めてみた当時は、低学年を担当していて、サークル対話から共同推敲の実践を行っていた。共同推敲とは、サークル対話で出された話題を元に、学級の皆で発表者の伝えなかったことをより良い文章に直していく、という試みである。ここではその実践の詳細は割愛するが、子どもたちがことばにこだわり、同じ意味のことばや表現をたくさん考えて出し合い、ぴったりくる表現を考えたり、句読点や段落の分け方にまで意識をもったりして取り組むことができた。このような共同推敲での学びを、3年生以降の国語でどのように引き取り、発展させていくか、その一つの手立てになりうると考えて、温めていた授業案の一つであった。

これらは、ことばや表現を別の表し方に工夫することでもあるが、ことばの情報だけでなく、絵(この場合は映像)の情報も合わせて理解していくことも必要となる。日常で、教科書に書かれたもので内容を理解したり解釈したりしながら育んできた力を、生活や社会にあるものに「引っかかる」学びとして授業化することにした。単元としては、話す・聞くの領域等を再編複合させて、時数を確保して行うこととした。

【参考】元(最初に見たもの)版 <https://youtu.be/F8bm2lxxjU?si=s46vzWsaotbqFAj0>
授業で使った版 <https://youtu.be/O6NZSAJRVlc?si=XPrdjiKUprl6JDbe>

(2) 導入～展開

導入では、“The power of Words”の動画を皆で見た。それを見た後、どういうストーリーであったかを尋ねると、皆内容は理解しており、やはり最初に書かれていたことばと女性が書き直したことばをもう一度見てみたい、という声上がり、動画をもう一度再生してみた。子どもたちは、自分たちの知っている英語を駆使しながら書かれていることを理解しようとするが、分からないところもある。だが、各クラスに帰国児童教育学級の子がいるため、その子を頼りながら、内容を理解していった。

私は、目が見えません。助けてください。



今日は、素晴らしい日ですね。だけど、私はそれを見ることができません。

この二つを見比べると、子どもたちは、「『目が見えない、助けて』よりも、心が動かされる」ということや、「伝えようとしていることは同じでも、印象がずいぶん変わる」といった考えを出していた。そこで、最近よく目にする左の絵



のポスターを提示した。

子どもたちは、話し合いを重ねていくうちに、このポスターは、対象が「まだメトポに入っていない、パスモを使っている人」であり、「メトロポイントに入ってください」ということを、特に見た人がお得だから、入りたくなるような言い方にしていてうまい、男の人もすごくインパクトがある、と読み取っていた。

もしも、この男性が何かを話す吹き出しがあるとしたら? と尋ねると、「え?入ってないの!?!」「すごいお得!」など色々なアイデアを出していた。



内閣官房 内閣感染症危機管理統括庁 X(Twitter) 2021年2月8日
最終閲覧:2024年2月16日

続けて、左のポスターを提示する。これについては、「いつ頃のものか」をまず考え、次に「何を伝えたいのか」を考えた。

絵の情報からも、ポスター全体の情報からも、コロナ禍のものであることはすぐにわかり、更にコロナ禍のいつ頃かについても考えていた。「これは、まだ続きそう」「コロナの終わり頃だったら、『また』は『もうすぐ』になっているのではないか。」など、ことばを根拠にしなが、コロナ真っ只中であることをつかんで行った(当時ツイッターに上がっていたのは、2021年2月。校内にも掲示してあった)。

そして、何を伝えたいのか、は、「初音ミクがマスクをしているから、マスクをしようということ」「みんなの笑顔に会えるから『今は我慢しよう』ということ」「3密(『…懐かしい〜』の声)を言いたい」など、やはり経験もあるせいか、すぐに掴むことができた。そして更に、「我慢しようは、あの頃やっていたから、そう言われるよりも、素直に見れる気がする」「初音ミクの色が青で、辛さを表現して、『また、みんなの〜』がピンクで表現しているのが暖かさを感じ

て、一人じゃないと励まされる気がする」など、ことばを超えてポスターの表現も考えて捉えようとしていた。

こうして、ガイダンス的に、これから取り組むことを決めた上で、私自身も学校から駅まで、また近場のターミナル駅である池袋駅の様々なポスターを撮影してきて、Google のクラスページにアップした他、子供達もカメラで撮影してくるなどして、本学習に取り組んでいる。

最初に提示したポスターの影響もあり、「このポスター、いい」というものも見つけてきて、どこが良いのかを書くなど、当初想定していた、「これ、変えたい」を超えて多様に展開されつつある。そして、本時は予定よりも前になってしまい、途中経過報告の中で、みんなにアドバイスをもらうことが中心になることが予想される。

ぜひ、参会者の皆さまにも、子どもたちと一緒に考えて、色々な表現を共に考えられたら面白いなあ、と思っています。

【参考文献】

為末大、今井むつみ(2023)「ことば、身体、学び『できるようになる』とはどういうことか」扶桑社
今井むつみ、秋田喜美(2023)「言語の本質」中央公論新社
大橋一慶(2023)「『ふ〜ん』が『これ欲しい!』に変わる 売れるコピー言い換え図鑑」ワニブックス